

【優 秀 賞】



氏 名 マルケス マーゼル
国・地域 フィリピン
在日期間 9ヶ月
所 属 九州日本語学校

タイトル：旅で広がる視野

朝も夜も関係なく人が多くてにぎやか。人々の笑う声やたくさんの車の音が響く。私が育った大好きなフィリピンの街は、こんな場所でした。その街は幼かった私にとって、世界のすべてだと感じていました。街にはゴミが多かったり空気が汚かったりしたのですが、当時の私にはそれが当たり前前の光景で、普通の日常でした。ところが、その当たり前前の感覚が14歳のとき大きく変わったのです。

それはシンガポールに家族と旅行したときのことでした。シンガポールの街を見ると、そこには私が知る世界とは全く違う景色が広がっていました。道にゴミが全然落ちていないのです。人目につくところにはゴミが全然ありません。都会なのに空気も新鮮に感じられ、見渡す限り清潔なところでした。街をよく見ると、禁煙や落書き禁止といった標識がいくつも見られました。また、街でガムを噛んだり、ポイ捨てなどをすると10万円前後の高額な罰金が科されるのです。私はこのことを知り、本当に驚きました。フィリピンにもゴミのポイ捨ての罰金はありますが、1000円程度であまり厳しくはありません。私は、シンガポールの街がこんなにきれいなのは、このような厳しい罰則があるからだと理解し、フィリピンも同じようにすればもっときれいな国になるのと思いました。

それから時が過ぎ、9か月前の4月、私は留学生として日本に来ました。日本もシンガポールと同じように街にゴミが少なく、きれいです。きっと日本にもシンガポールのように厳しい法律や高い罰金があるのだらうと思いました。ところが、そうではなく日本のゴミ捨てに関するルールはシンガポールほど厳しくはないのです。法律による罰金や罰則もありません。なのにどうして日本の人たちは、自分たちの街をこんなにきれいに保っているのでしょうか。

私が今の学校生活で驚いたことの1つに、授業後の掃除があります。これは学生が交代で毎日やらなければならないものです。初めは驚きましたが、話を聞くと日本では小学校から高校、専門学校などでも、ほとんどの学生たちが教室や学校全体の掃除を毎日行うようです。そうして、自分の身の回りをきれいにしていこうという意識を子どものうちから持たせるのです。街を歩い

ていると、年配の方が自分の家の前だけでなく、となり近所までそうじをしているところをよく見かけます。きっと子どものころからの「いつも自分の身の回りをきれいに保つ」という意識付けが、大人になっても強く根付いているのだと思います。それで、日本人たちは、自分たちの街は自分できれいにするという責任感のようなものを持ち合わせているのだと感じました。

これまでシンガポールと日本の街の様子を見て来て、どちらもきれいにしているのに、その方法がかなり異なっていることがわかりました。どちらのやり方が優れているのか、私にはわかりません。ただ、どちらの国の人たちもそれぞれの価値観で、自分たちの街をきれいにしていこうという気持ちを強く持っていると思います。フィリピンの街はシンガポールや日本に比べると、まだ改善の余地がたくさんあります。街がもっときれいになるように、1人のフィリピン人として私がそれぞれの国で経験したことを伝えていきたいと思います。そして、みんながよく考えて新しい価値観を生み出し、いちばんいいと思う方法で、私の国をみんなできれいにしていくことが大切なのではないでしょうか。